

【目的】 COVID-19の流行により生活・医療環境は大きく変化している。第1, 2波における非特定警戒都道府県の中核都市である岡山市における小児救急搬送の現状について検討した。

【方法】 2019・2020年の2～5月に同市消防局内で、転院を除いた17歳以下を対象に後方視的観察研究を行った。

【結果】 4, 5月の搬送数は前年比の半数以下。発熱を有する搬送も減少していた。重症例は横ばいで、軽症・中等症の減少が顕著であった。背景因子や搬送時間の差は認めなかった。

【結論】 同市では平時から小児医療体制が確立しており、県全体のCOVID-19の感染者数も少なかったため、検討期間において救急搬送体制は適切に保たれていた。今後は、COVID-19患者増大で医療逼迫が予測される。非COVID-19の小児医療体制維持が今後の課題である。

非特定警戒地域における 新型コロナウイルス流行下の小児救急搬送の状況変化

	2019 (N=763)		2020 (N=482)	
搬送数(件), n (%)				
2月	189	(24.8)	159	(33.0)
3月	170	(22.3)	143	(29.7)
4月	200	(26.2)	85	(17.6)
5月	204	(26.7)	95	(19.7)
年齢(年), mean (SD)	6.50	5.74	6.10	5.38
性別, n (%)				
男児	455	(58.3)	272	(56.4)
女児	318	(41.7)	210	(43.6)
区分, n (%)				
新生児 (生後28日以下)	3	(0.4)	1	(0.2)
乳幼児 (生後28日以上～満7歳)	444	(58.7)	290	(60.4)
少年 (満7～18歳未満)	310	(41.0)	189	(39.4)
搬送種別(件), n (%)				
内因	484	(63.4)	289	(60.0)
外因	279	(36.6)	193	(40.0)
傷病程度(件), n (%)				
軽症	575	(75.4)	368	(76.4)
中等症	168	(22.0)	97	(20.1)
重症	12	(1.6)	11	(2.3)
死亡	2	(0.3)	4	(0.8)
不明	6	(0.8)	2	(0.4)
発熱, n (%)				
<37.5°C	410	(53.7)	302	(66.7)
≥37.5°C	290	(38.0)	153	(31.7)
測定記録なし	63	(8.3)	27	(5.6)
交渉回数(回), n (%)				
3回以下	749	(98.9)	469	(97.7)
4回以上	8	(1.1)	6	(1.3)

4月・5月は前年比の半減

**軽症・中等症の搬送数が減少
重症に関しては変わらず**

搬送選定困難数の増加なし